

単元名「Work Experience」（第2学年 話すこと【やり取り】）

■ 本事例のポイント

1. SPR（＝瞬発力）トレーニングを常活動に取り入れることで、即興的なアウトプットへの自信を育んだ。
2. ルーブリックを活用し生徒と共有することで、生徒が自己の表現の課題に気付き学習調整できるよう環境を整えた。

■ 単元の目標

日常的な話題（仕事選び）について、相手にやってみたいと思ってもらえるように、興味や関心を聞き出す質問を交え、相手のよさを認めながら、仕事選びについてアドバイスすることができる。

■ 単元の指導計画（9時間）

第1～4時

「自身の職場体験について伝え合う」

- ・本文の内容理解と新出文法を学習する。
- ・インタビュー活動を通じて、自分の経験以外の様々な仕事の情報を得て、関連表現を書き溜める。

第5～8時

「友達に合う仕事についてアドバイスする」

- ・Picture Talk（2枚の異なる写真を提示し、仕事選びに関するやり取り）をペアで繰り返す。
- ・振り返りシートに単元ゴールで生かせそうな表現をまとめる。

第9時 パフォーマンステスト

「ALTにやってみたいと思ってもらえるように、興味や関心を聞き出す質問を交えながら、仕事選びについてアドバイスする」

■ 本時の概要

めあて 相手の興味を聞き出したり、自分の考えを伝えながら、仕事選びについて友達にアドバイスしよう。

【常活動】

「SPR(瞬発力)トレーニング」で既習表現を復習する。



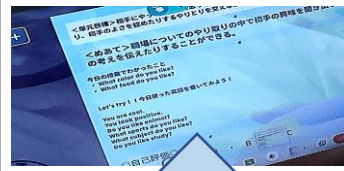
【Reading】

本文の内容理解をしながら、登場人物のよいところを見付け、伝え合う。



【振り返り】

友達とのやり取りを振り返り、「今日使った英語」等を記入する。



【言語活動（Picture Talk）】

Junior high school or Tokyo Dome

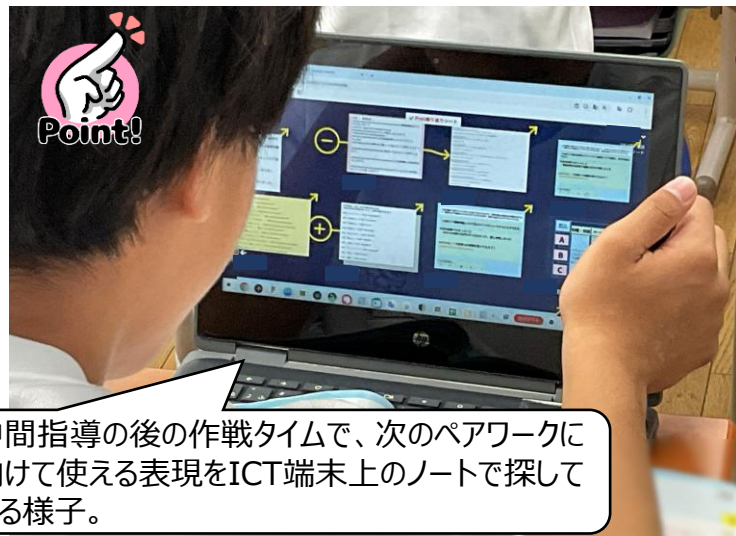
Give advice to your partner.



- ・生徒の自由な発想を促すために、Word Boxは設けません。
- ・生徒はこれまでに書き溜めた表現等を活用します。
- ・提示した写真は生徒にとって身近なものや魅力的なものを選びました。



■ 学習調整をしている子供の姿



中間指導の後の作戦タイムで、次のペアワークに向けて使える表現をICT端末上のノートで探している様子。

↑ 中間指導後の作戦タイム ↓

★「親しみやすい人がこの仕事に向いている」は英語でどう言えばいいのかな？
他の人に聞いてみよう。



言語活動に繰り返し取り組み、中間指導や作戦タイムを設けることで、生徒の変容が見られた。

今日の授業でわかったこと
GeminiやGoogleドキュメントを使いながら読み方や発音を覚えることができた。でも、読み方がわからないのがあった。画面ははっきりにならない。

今日の授業でわかったこと
最初はなにを言えばいいかわからなくて無言の時間があっけど、作戦タイムでよく考えたことで、反応やいろいろな表現を使うことができた。4校時よりたくさんの表現を使うことができた。アイコンタクトをとれた。

I learned about teamwork from the work experience.

★A friendly person is good for this job!

単元末のパフォーマンステスト
(ALTにアドバイスをする)

■ 指導と評価の工夫

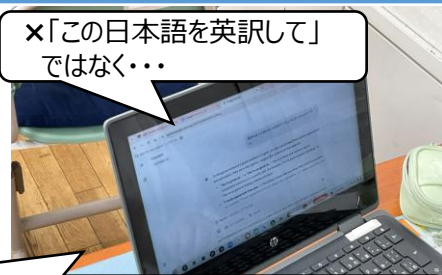
① 常活動としての「SPRトレーニング」

＊ 既習事項の復習と、やり取りで頻繁に扱われるフレーズの定着を図り、生徒の即興的なアウトプットへの自信を育むことにつながる。

② 生成AI※の活用

＊ 生徒の表現に対する内容面（相手の興味や関心を聞き出しているか）と言語面（既習事項のエラー）のフォローアップが瞬時にできる。

×「この日本語を英訳して」ではなく・・・



○「相手のよさを伝えるには、英語でどのように言うの？」
○(自分で考えた英文を入力して)「アドバイスをください」「添削して、ポイントを教えてください」等

※生成AIについては、所管の教育委員会及び保護者の許可を得て使用している。

③ 段階的な活動とルーブリックの活用

＊ 目標の達成に向けて、取り組むべき課題が明確になる。

評価項目 (4段階)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	パフォーマンステストで評価しない。	自分の考えや意見を明確に伝え、相手の反応を確認しながら進める。	積極的に学習に取り組む。
B	パフォーマンステストで評価しない。	自分の考えや意見を伝え、相手の反応を確認しながら進める。	積極的に学習に取り組む。
C	パフォーマンステストで評価しない。	自分の考えや意見を伝え、相手の反応を確認しながら進める。	積極的に学習に取り組む。

■ 成果 (○) と課題 (▲)

○ 協働的な学習場面の設定とルーブリックの共有、単元を通じた段階的な言語活動（インタビュー→Picture Talk）により、生徒が自己の表現の課題に気付き、必要な表現を自ら書き溜め、それらをやり取りの中で使おうとする姿が見られた。

▲ 何となく質問やアドバイスをするに留まってしまう姿が見られた。なぜその質問やアドバイスを選んだのかを考えたり、言語活動の目的・場面・状況に立ち返ったりすることで、相手意識（性格や好み等）を考慮したやり取りにつながると考えられる。